

●相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

●サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

●相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075 - 595 - 4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

私の薦める、私の一冊 Column

臨床腫瘍学分野 准教授 中田 晋

ヘルマン・ヘッセ著/高橋健二訳『知と愛』
新潮文庫(1959)

原題は「ナルチスとゴルトムント」である。修道院の正統な神学者で迷うことのない知の人ナルチスと、芸術と愛の世界に生きた迷える人ゴルトムントの出会いに物語は始まる。神童と呼ばれながら自分が修道院の中の世界だけでは生きられないことを悟った美少年ゴルトムントは、人生の真実を求めて放浪の旅にでる。自由奔放な愛の遍歴を重ね、時には危ない橋も渡りながら、やがて自らの天命を彫刻家として芸術に奉仕することに見いだす。時が経ち、年老いて芸術家として半ば燃え尽き、愛も破綻して行き詰まったゴルトムントは、知の世界と愛の世界を融合させた聖母マリア像の制作に救いを求めるように、ナルチスが院長となった修道院に戻ってくる。対立し引き裂かれた二人の世界が、最後には融和へと向かう人生の物語が、ノーベル賞作家のこのうえなく美しい言葉で描かれる。

若い時の悩みは、この相容れない両極性に集約されるのではないだろうか。薬学の専門家をめざして勉学に励まなくてはならない苦しい現実に（試験の度に）直面させられる一方で、今日もテレビをつければ美男美女達がゲラゲラと楽しく可笑しく生きる世界が映し出される。私の場合、20代前半での将来の夢は、作家かミュージシャン、もしくは映画監督、でなければ写真家、それもだめなら旅人になる、というものであった。自分で医師になると決めたのだからちゃんと医学を学べという正し過ぎる使命は、（試

験前になると）私を押し潰そうとする巨大な岩のような気がした。これぞ現実と精神の断裂である。

その後、いろいろ頑張って、また沢山の人の力を借りて、どうにか社会で生きていくうちに、この二極化というような極端な区別をすることから脱却し、自分なりのバランスをみつけるようになる。人はその過程を、大人になる、という。

しかし、一つ重要なことは、ヘッセ自身は生涯をかけてこのような作品を書いている点である。天才は一生、子供のように生きていけるのだ。一步も引かずに。まずこのことに勇気づけられる。逆にいうと、ヘッセと聞いて「子供ねえ」と片付ける人は、所詮は幸せな凡人に過ぎないのかもしれないのだ。

さらに重要なことは、ゴルトムントが最後は修道院に帰ってくることである。愛と芸術の美しい世界も突き詰めてしまうと、だんだん苦しいことになってきて、やがて将棋が詰むように追い込まれる。最後に救われるのは原点に戻ることであり、二極化ではなく融合である。意外にも、知の世界に救われるのである。ここに我々に代わって苦しみ続けたヘッセが残してくれたヒントがある気がしている。

※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

